

---

# 失恋ミルクココア

梅花

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

失恋ミルクココア

### 【Nコード】

N5564P

### 【作者名】

梅花

### 【あらすじ】

元彼を半年経った今でも忘れられない主人公。

そんな主人公がクリスマスの日運命の人と出会う、短い物語です。

## 前編

「別れよう」

半年間つきあった彼に、半年前そう言われた。

今日はクリスマス。

憧れだった。恋人と過ごすクリスマス……。

なんだか泣けてきてしまった。

家の近くの公園で、私は一人、泣きじゃくってしまった。

まだ彼が好きだった。忘れられなかった。大好きだった。

公園を横切る人達は、私を変な子とか思っているに違いない。  
そんな感じの目をしている。

でもそんなのどうでもいい……。

「大丈夫？」

ふと顔を上げると、同じクラスの男の子が私の顔を心配そうに見つめてくれていた。

## 前編（後書き）

失恋はつらいけど、必ず乗り越えられる、ということはこの作品で表わせたらな〜と、思います。

## 後編

確か……、笹川君……だっけ？

「泣いてたから……これ……」

帰宅部で無愛想な笹川君が差し出したのは、ミルクココアだった。

「……ありがとう……」

コートは着ていたけれど、長い時間いたので体は冷えきっていた。

ふたをあけると、温かい湯気が出た。

一口飲む。

甘かった……けれど、少ししょっぱかった。

笹川君の優しさと、失恋の味がした。

来年のクリスマス、まさか笹川君とつきあっているなんて、このときは思いもしなかっただろう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5564p/>

---

失恋ミルクココア

2010年12月25日14時11分発行